

新たな日の出

モノづくりの進むべき道

吉野機械製作所（千葉市緑区）は、板金加工機・鍛

海外で展

100億円を目指す中、注力しているのは、「これまで個別受注の単に事業を展開する。新たな成長に向けた取り組みとしてロボットへのディメンタで板金を加工する完全自動曲げシステムの投入などを積極的に進めている。こうした中、「100億宣言」を掲げ、2005年までに売上高100億円（27年3月期は20億円の見込み）を目指す。吉野友章社長に100億円達成への道筋を聞いた。



吉野機械製作所社長 吉野 友章 氏

な取り組みを教えてください。

「海外企業と共同で開発を進めている。金属板を折り曲げる機械『ネルベンダー』をシリーズ化してグローバルで展開していく。10月に開催される海外の展示会に出展する予定。データーセンター向けのラックや配電盤、筐体などの需要拡大を背景に、これらを効率的に加えることができる。完全に自動化されたシステムは27年からの拡販に向けた体制が整ったところだ。1号案件が具体化し、同システムへの引き合いも増えている。さらにあるメーカーが手がけるファイバーレーザーの販売代理店として取り扱いを開始し、フィナンツは着実に増えている」

海外展開についてはいかがですか。

汎用機ラインアップ拡大



千葉から世界へ製造業の未来を動かす。現場、データー、AI、エネルギーをつなげた次世代製造業プラットフォームに進化したいと話す吉野さん

「海外メーカーとアライにしたい」

「近年はICTやAIの活用を活性化しています。AI活用は、用途の異なるとのクラウド環境で、同社の生産体制と販売を進めている。一つは、社内網を活用した海外展開を目的としたワーク機械の仕様書や、MTC Connectなどで取り扱ったデータを集約し、AIによる海外売上高比率を40% 兆の把握とメンテナンス支援につなげる取り組みだ。

AI活用メンテ支援サービス開発

「一つは、社内文書や製番進捗を横断的に参照し、対話形式で必要な情報取得できる社内AIで、現在構築を進めている。経営指標を可視化するタッシュボードも構築しており、将来これらの仕組みを装置メーカー向けのサービスや自製製品のサブスクリプション機能として展開したい」

イノベーション推進

「オープンイノベーションに積極的です。100億円を達成するには自社の力だけでは難しい。スタートアップや大学・研究機関などオープンイノベーションを推進する。これまでも慶応義塾大学ハブテイクス研究センターと共同で力触覚を再現する技術「リアルハブティクス」を板金曲げ加工に適用した技術やシンガポールの南洋理工大（NITU）からのスピンオフ企業「スレーキ」の自動曲げに関する技術を開発してきた。ハードだけでなくソフトやAIで付加価値を付ける。これらは自社でやるよりも外部の力を借りた方が効率的。価格を抑えて品質の良い製品を提供していくためにもオープンイノベーションは必要」

品質と納期対応力

「最終的に目指す姿は、品質と納期対応力をさらに高めるため、溶接など一部工程の内製化を進め、主要工程を一貫して担える体制を整える。自社の技術力を高め、熟練工の知見をデジタル化して次世代に継承していく。これらを通じて、品質・コストで貢献する。千葉から世界へ製造業の未来を動かす。現場、データー、AI、エネルギーをつなげた次世代製造業プラットフォームに進化したい」

新成長へ「100億企業宣言」